

自分ごとと化会議中間まとめ

～第2班 防災・防犯～

以下は、私たち第2班の会議参加者が、議論してきたことや、各回で記載した「改善提案シート」の内容を中心にまとめたものです。

課題

1. 各自治会の加入率が低下しており、さらに価値観の多様化に伴い自治会の存在意義が危うい状況である。このままでは、災害発生時に地域としての対応が困難になる。

課題

2. 地域住民全体が高齢化（特に日中は高齢者だけの町になる）し、防災の担い手がいなくなる中で、地域防災体制をどのように維持するか。

課題

3. 災害時における要配慮者の避難が曖昧であり、要配慮者と支援者の関係性や、個人・地域・行政の支援体制を構築する必要がある。

課題

4. 地域住民全体が高齢化する中で、地域に活力が無くなり、歩く人が少なくなると、不審者が入りやすくなる。地域防犯をどのように維持するか。

課題

5. 近所で何が起きているか情報がなく、防災・防犯のインフラとして、スマートフォンなどの新しい技術を活用した情報共有体制が必要。

課題

6. 地域住民全体が高齢化する中で、ごみ当番やごみ出しが困難な方もいる。既存の制度では救えない方々をどのように支援していくか。

各自治会の加入率が低下しており、さらに価値観の多様化に伴い自治会の存在意義が危うい状況である。このままでは、災害発生時に地域としての対応が困難になる。

	それぞれの課題	解決する方法
個人	① 近所の人を知らない。無関心。どこの小学校区に住んでいるのかもわからない。	A) 自分ごと化会議のような会議を開催し、周りの人に話をする。
	② 近所でも知らない人に声掛けしづらい。	B) 向こう三軒両隣の精神で周囲の住民を把握する。
	③ 住民同士の交流の機会が減っている。	C) 自治会に加入し、活動を知る。
	④ 自治会の活動内容や加入するメリットがわからない。	D) 自治会の大切さを伝える。
	⑤ アパート住まいの方達は、自治会に加入しなくてもいいと思ってしまう。	E) 自分は、自治会を脱会しない。
	⑥ 自治会は仕事や子育てに忙しく、ハードルが高い（地域活動には参加したい）。	F) 自分の子供には、自治会の会員継承をしつかりと行う。
	⑦ 休日は自分の子ども中心の過ごし方が多く、地域活動に充てる時間がない。	G) 街のストロングポイントは何か考える。
	⑧ 世代間の価値観の多様化により自治会の会員継承が難しくなっている。	H) 自分なりの解決策（案）や参加したい事業を提案する。
地域	① 自治会の魅力が伝わっていない。	I) 地域での交流に異世代の方も巻き込んでいく。
	② 校区内で地域の参加者に温度差がある。	A) 目標・目的を明確にする。
	③ 校区間で参加者の思いの強弱がある。	B) 自治会の必要性をPRする。
	④ 地域コミュニティ協議会の名称はあるが、あまり動きがない。	C) 自治会活動を活発に行い、住民全体の交流を進めていく。
	⑤ 住民の少子高齢化に伴い、市民運動会への参加者が減少している。	D) 地域住民のサポートに全力を尽くす。
	⑥ 新型コロナウイルスの影響で、自治会等コミュニティの行事がすべて中止。	E) 時勢に合わせて自治会の在り方や会則を見直し改訂していく。
	⑦ 市に頼らない地域コミュニティ協議会が必要。	F) 運動会などの各種イベントのあり方や実施運営方法を見直し、必要に応じて変更していく。
		G) 定期的に地区住民にアンケート調査を実施し、ニーズ把握をする。
	H) 新型コロナウイルスの影響で、何でも中止にするのではなく、十分な対策を図って開催する方法を模索する。	

**その他
(民間)**

①

A)

① 自治会・地域コミュニティ協議会のPRが不足している。

A) 広報誌等の掲載以外に様々なPRが必要。

B) 転入時に書類で自治会の案内をする。

行政

② 自治会非加入者でも町づくりに参加出来る制度が見えない。

C) 幅広い情報（全国、海外も含む）を地域（自治会等）や住民に提供する。

③ 自治会に対する対応が不足している。

【行政と協力・連携する上での課題や改善策等】

(ア) 自治会で防災・防犯活動を行う場合は、行政も積極的に対応してほしい。

地域住民全体が高齢化（特に日中は高齢者だけの町になる）
 2. し、防災の担い手がいなくなる中で、地域防災体制をどのように維持するか。

	それぞれの課題	解決する方法
個人	① 正常バイアスが働きすぎる。非常時の意識（常に非日常リスクがある）が薄い。	A) 自分ごと化会議のような会議に参加し勉強する。自分の住んでいる地域の危険について考える。
	② 災害のことを自分に起こることと考えられない。被災したイメージができていない。防災意識が低い。	B) 家族で災害時の事（避難場所や避難基準など）を話し合う。
	③ 自分で避難を判断することが困難。	C) 日頃から災害体験や防災訓練をする。
	④ 防災グッズを十分に用意できていない。必要なものが書かれたパンフレットなどを見ても、（水や食料など）持っていけるのか等の点から準備しづらい。	D) 完全に日常をルーティン化しない（違うことを1つ混ぜる）。
	⑤ 消火器の設置場所・使用方法が不明。	E) 自助の備え（1次持出袋、備蓄）。マイタイムラインの理解と訓練。 F) 日ごろから防災グッズを用意し、中身を確認しておき、準備しておく。キャンプ用品からヒントを得て楽しく備える。 G) 消火器の設置場所・使用方法を学ぶ。
地域	① 団体単位で正常バイアスが働いている。	A) 地域の中で、月1回、どこが危険なのか話し合う。マップを作成する。
	② 担い手が高齢化し、災害時に自分の事以上に地域の機敏な対応が困難。	B) 地域（自治会内）の避難所への早めの避難、日頃の居場所（サロン）の避難所化。
	③ 地域の人々の顔が把握しきれておらず、災害時に地域の人を助けられない。	C) 防災リュックの配布、チェックリストなどを定期的に配布する。
	④ 地域の全員が防災グッズをしっかりと準備できているわけではない。	D) 地域の夏祭りなど楽しい行事で人が集まる機会と併せて避難訓練を行う。
	⑤ 避難の方法などの防災情報を伝達する手段が、回覧板しかなく広がらない。	E) 消火器を活用した訓練を行うなど、避難訓練の内容を更新する。
	⑥ 防災訓練の参加者が固定し、参加者が集まらない。意識が低く形式化している。	F) ポスター、SNS、声掛けなど、色々なカタチで防災情報を周知する。
その他（民間）	① 介護施設・通所施設への避難が可能か。	A) 介護施設や通所施設への避難を可能にする。社協等による地域の居場所の運営支援と避難所化支援を行う。
	② 消火器の設置場所を知っておく。	B) 消火器を積極的に使用するPRをする。
	③ 電力、電話、ガス等のインフラ事業者との情報交換ができていない。	C) 防災訓練の時に、ブースを出してもらい

情報提供してもらおう。

行政

- | | |
|--|--|
| ① 避難所が少ない。遠い。 | A) 平時から、地域（自治会）での居場所の運営を支援し、災害時に避難所とする。 |
| ② 避難訓練が形式化している。防災グッズの点検やそれを持つての訓練は行われていない。 | B) キャンプをしながらなど、市民が楽しむ防災の取り組みや、消防と連携し、消火器を使ったリアルな訓練を行う。 |
| ③ 防災に関するPRが不足している。 | C) 各小学校での防災訓練に加えて、公民館の利用を含めた防災訓練を市が先導。 |
| ④ 避難所運営計画の作成が必要。 | D) ハザードマップの更新、情報誌の配布、防災イベントの開催を増やす。 |
| ⑤ 災害時における公民館の機能性が不明。 | E) 避難所運営計画を作成する。 |
| ⑥ 高架化 線路による分断での緊急車両の通行などが困難。 | |

【行政と協力・連携する上での課題や改善策等】

- (ア) 自治会の必要性が、住民に伝わっていないところが根本かと思われる。「防災」の問題だけではないと思う。
- (イ) 日頃から地域(自治会)内に居場所(サロン)を作っておき、そこを地域の避難所とする。
- (ウ) 避難訓練について、逃げるだけの訓練だけではなく、防災グッズをもって、避難訓練をするように促せば実際に想定できるのではないか。また、小学校だけではなく、自分たちが避難する場所（公民館も含めて）で避難訓練や避難所の運営訓練を行う。
- (エ) 災害初期には行政は頼れない。まずは住民自身、自助ができるよう、その次は要配慮者への共助、その後行政と協力して公助を進めていく。
- (オ) 自助・共助の大切さを住民全員が意識を持つための意識づけをどうするか。
- (カ) 大きな災害時、行政の人が避難所運営に携われるのか？無理なら誰がするのか。受付、会場のパーティション、体育館の割り振りなどなど。

3. 災害時における要配慮者の避難が曖昧であり、要配慮者と支援者の関係性や、個人・地域・行政の支援体制を構築する必要がある。

	それぞれの課題	解決する方法
個人	① 近所の人を知らない。無関心。	A) 地域の方との繋がりを意識して高め、近所の人や顔や状況を知る。普段からの交流で、高齢者世帯、要配慮者を把握する。
	② 近所でも知らない人に声掛けしづらい。	
	③ 住民同士の交流の機会が減っている。	
	④ 災害時に、自分が助かったとして、他者を助けることができるか不安。	B) 要配慮者と支援者の両者を引き合わせるために両者を知る。
地域	① 要配慮者に対して準備ができていない。	A) 近所での付き合いを深め安全確保につなげる。自治会の加入・非加入を問わず、向こう三軒両隣声掛け運動を続け、地域の協力体制を築く。 B) 要配慮者のマップを作成し、普段から気に掛ける。
	①	A)
その他(民間)		
行政	① 要配慮者の名簿があるが、個人情報保護の関係で、開示が難しい。	A) 要配慮者とは何かを周知する。 B) 要配慮者名簿を自主防災会に提示する。
	② 要配慮者のリストを民生委員が所持されているとの事なので、作成方法を考える必要が有る。	C) 避難訓練の時に要配慮者にも声掛けを行い、参加を促す。 D) 災害発生時には、要配慮者を把握したうえで、できるだけ早く救助活動を行う。

【行政と協力・連携する上での課題や改善策等】

(ア) 行政と地域がしっかり打合せを行い、要配慮者やリストの作成が必要。

地域住民全体が高齢化する中で、地域に活力が無くなり、
4. 歩く人が少なくなると、不審者が入りやすくなる。地域防犯をどのように維持するか。

	それぞれの課題	解決する方法
個人	① 暗くなると、不安を感じる道がある。	A) スマホのライトや首から下げるライトなどを用いる。
	② 近所でも、通学路など、時間帯によって変わる姿を知らない。危険な場所（道・地域など）がわからない。	B) 知る手段を把握しているので調べる。
	③ 防犯意識が低く、知らないことが多い。	C) 1人1人が「1戸1灯運動」を進める。自宅の駐車場の電気をもう少し長くつける。
	④ 近所の事件でも情報を知らない。	D) 新聞をとる。防犯メールの登録。
地域	① 担い手が高齢化し、外出しなくなる。	A) 地域に多くの居場所(サロン)をつくり、可能な限りの地域で見回りをする。
	② 住宅街では人通りが少なく灯も少ない。	B) それぞれの地域で「1戸1灯運動」を積極的に取り組む。玄関灯をつけることなど、協力を依頼する。
	③ 防犯活動が認知されない。	C) それぞれの地域の特徴を捉えた防犯活動が必要。
	④ 1戸1灯運動が地域に伝わっていない。	
	⑤ 防犯活動をやってもマンネリ化。流れ作業化してしまう。	
その他(民間)	① 会社周辺に街灯が少ない。	A) 警備会社等による地域見回りシステム。
	② 防犯活動をやってもマンネリ化。流れ作業化してしまう。	B) 会社の入り口だけではなく、周囲に灯りをつけてくれるようお願いする。
		C) 最近の傾向を把握する。
行政	① 暗い場所等が把握しきれていない。	A) 地域の居場所(サロン)運営の支援。
	② 防犯灯の設置台数が十分でないため、暗くて危険そうなどところがある。	B) 防犯カメラ設置(見える化)による不審者への心理的圧力。
	③ 河川沿いに照明が無く危険。	C) 定期的に市民アンケート等を実施する。

【行政と協力・連携する上での課題や改善策等】

(ア) 高齢者の外出機会を創出する(自宅から行ける範囲に居場所)。地域からのニーズを待っているがダメ。必要性をPR。町を見守るシステムをどうつくるか。

(イ) 行政、地域と警察・警察OBが連携した見回りシステムの導入。

(ウ) 防犯灯の設置を依頼するのが難しい人もいると思うので、行政や各地域の自治会や市民の方々に声掛け(アンケート)をして連携していくことが必要ではないか。

(エ) 自宅周辺に防犯灯が少ないという事を知らない。必要なことを知らせることが必要。

- 近所で何が起きているか情報がなく、防災・防犯のインフラとして、スマートフォンなどの新しい技術を活用した情報共有体制が必要。

	それぞれの課題	解決する方法
個人	① スマートフォンを持っていない。 ② スマートフォンは維持コストが高い。 ③ 特に高齢者にとって、スマートフォンの操作が難しい（できない）。 ④ 近所にパトカーが停まっていたり、お隣の家で聞き取りに来たりしていても、何があったのか情報を全く知らない。	A) 新聞をとる。 B) 防災・防犯メールに登録する。 C) 第三者に使用方法を説明できるように使用方法を習得する。
地域	① 地域活動にスマートフォンを活用（SNS、防災・防犯メール）した方法が行き届いていない。	A) 民間と連携して講習会を開く。 B) 地域の防災・防犯情報のSNSを管理し、誰でも気づいたことを共有する。
その他（民間）	① スマートフォン普及に対する取り組みが豆釘打ちになっている。	A) （市からの委託などにより）使用方法講習会を開く。
行政	① スマートフォンの普及に関する具体的な前例がない。	A) 利用に対しての補助金を支給。 B) 防災・防犯メールの案内を行う。

【行政と協力・連携する上での課題や改善策等】

(ア) 防災・防犯のインフラとして、ますます重要度の増すスマートフォン。キャリアが値下げすることができなければ、市が住民税・所得税から1世帯当たり使用料を控除する。

地域住民全体が高齢化する中で、ごみ当番やごみ出しが困難な方もいる。既存の制度では救えない方々をどのように支援していくか。

	それぞれの課題	解決する方法
個人	<ul style="list-style-type: none"> ① 収集日やごみの分別が守られずにごみが出される。 ② 住民の高齢化（病気も含む）によりごみ当番やごみ出しができなくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> A) ルールを守ってゴミを出す。 B) ルールを守らずにごみを出している人には説明と注意をする。 C) 高齢者の家庭ごみを運んであげる。 D) エコバックを活用し、ごみの減量化に努める。
地域	<ul style="list-style-type: none"> ① カラスや犬、猫等により、ごみが散乱。 ② 住民の高齢化（病気も含む）によりごみ当番やごみ出しができなくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> A) 気付いた時点で片付けとごみネット掛けをする。 B) 自治会員や非会員の区別なく、所定ごみステーション利用住民への周知徹底。 C) 自治会等からの情報提供（回覧板等）や解決支援。 D) ごみ出しできない人の原因（認知症が始まっているからか？足腰が弱っているからか？）を把握し、所定ごみステーションの利用住民間で助け合う。 E) 家庭ごみの収集場所を増やす（共助）。
その他（民間）	<ul style="list-style-type: none"> ① 住民の高齢化（病気も含む）によりごみ当番やごみ出しができなくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> A) 民生児童委員としての使命感から、可能な範囲で代替作業をする。 B) 店舗の過剰包装を控え、ごみの減量化に努める。
行政	<ul style="list-style-type: none"> ① ふれあい収集（ごみ収集福祉サービス）が周知されていない。 ② ふれあい収集は、居宅介護支援事業所等を通じての申請であり、対象者が狭い。 	<ul style="list-style-type: none"> A) 地域の苦情解決のための仲介、調整。 B) 情報発信（広報、FMおとくに等）。 C) 成功、失敗、新たな課題等を客観的な情報として提供する。 D) ごみが散乱しないように、現在のゴミ収集箱にドアをつける。

【行政と協力・連携する上での課題や改善策等】

(ア) ふれあい収集から漏れた独居高齢者や病気などによる一時的なゴミ出し困難者を地域や民生委員などと協力して助ける。

【その他の課題】

市中心部に大型の公園が無い。